

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名

Embun Suryani

論文題目

A Study on the Performance of Credit Guarantee Schemes  
for Micro and Small Enterprises in Indonesia  
(インドネシアにおける零細・  
小企業向け信用保証制度の実績に関する一考察)

論文審査担当者

主査	名古屋大学	教授	伊東早苗
委員	名古屋大学	教授	島田弦
委員	名古屋大学	准教授	Christian Otchia
	(外部審査委員)		
	津田塾大学	教授	新海尚子

# 論文審査の結果の要旨

## 1. 論文の概要と構成

本博士論文は、インドネシアの包摂的な経済開発にとって重要な意味をもつ零細・中小企業向け信用保証制度の実績について、インドネシアの国営信用保証会社 Perum Jamkrindo の事例にもとづいて検証することを目的に執筆された。インドネシアの零細・中小企業による GDP への貢献度は 53.49%にのぼり、これらの企業で働く人々の割合は、全雇用人口の約 9 割を占める。一方で、零細・中小企業は大手企業に比べて金融サービスへのアクセスが著しく困難で、恒常的な資金不足に見舞われている。金融サービスへのアクセスが阻害されている最大の要因は、零細・中小企業にとって、銀行が融資の際に要求する担保を確保することが困難なことである。また、貸し手と借り手の間に横たわる情報の非対称性を乗り越える有効な手段が得難いことも要因である。これらの問題を乗り越えるため、多くの国で、政府が各種信用保証スキームを策定し、商業銀行が零細・中小企業に貸し付けを行う際のリスクを移転する仕組み作りを行ってきた。

こうした背景の中、本論文は、インドネシアにおける零細・小企業向け信用保証制度の実績を、インドネシア、ロンボク島の観光セクターを事例にとって分析するものである。具体的には、インドネシア政府が 40 年前に設置した国営信用保証会社 Perum Jamkrindo の業績評価、信用保証会社が扱う零細・小企業向け特別信用保証 (KUR) ローンが借り手にもたらす便益の評価、そして、参加銀行が借り手のモラル・ハザードを防ぐためにとる対策の評価を行う。結論として、インドネシア国営信用保証会社 Perum Jamkrindo の運営は効率的であり、零細・小企業の Financial Additionality (財務的追加性) および Economic Additionality (経済的追加性) に総じてプラスの影響を与えていると議論する。さらに、信用保証制度がはらむモラル・ハザードの危険性を回避するため、参加銀行は戦略的にリレーションシップ・バンキング (間柄重視の地域密着型金融) を強化しており、それが信用保証制度の良好な機能にとって不可欠であると議論する。

本論文は全 6 章からなる。第 1 章は研究課題およびその背景や意義を説明し、本論文の概念枠組みと分析手法を説明する章である。第 2 章は、信用保証制度をめぐる国際的な議論を整理し、その制度設計および実績評価の枠組 (自己資本比率、不良債権比率、財務的追加性、経済的追加性、貸し手と借り手の関係性) について説明する章である。第 3 章は、インドネシアにおける信用保証会社が発展した歴史的経緯と現在の制度的仕組みを概観し、信用保証制度に参加する国営信用保証会社と参加金融機関の特徴と役割を説明する。また、インドネシア政府が信用保証会社の資金調達力を高めるために 2007 年に導入した特別信用保証 (KUR) ローン (庶民事業クレジット) の特徴と実績についても説明する。第 4 章は、ロンボク島マタラム市および西ロンボク県で 109 社を対象に実施した質問票調査データによる記述統計とロジスティック回帰分析から、Perum Jamkrindo の業績を評価し、零細・小企業の便益と、

# 論文審査の結果の要旨

便益を受けやすい要因を測定する章である。自己資本比率、不良債権比率、財務的追加性、経済的追加性を分析し、財務的追加性に影響する企業主の特徴を分析する。結果として、Perum Jamkrindo は高い財務的持続可能性をもち、調査対象である零細・小企業は Perum Jamkrindo が信用保証する融資を受けることで財務的追加性による便益を受けていると議論する。ただし、財務的追加性は、事業主の年齢やジェンダー、年間売り上げ高、銀行との取引年数等によって左右されるとする。また、事業規模が小さいことにより、新しい技術やイノベーションの導入に制約がかかり、経済的追加性は限定的であると論じる。第5章は、貸し手である銀行と借り手である零細・小企業との関係性を、インドネシア庶民銀行 (Bank Rakyat Indonesia) の得意先担当者と零細・小企業主である顧客とのやりとりを詳細な聞き取り調査のデータに基づいて分析する章である。それにより、「リレーションシップ・バンキング」として知られる間柄重視の地域密着型金融が、信用保証制度がもつモラル・ハザードの発生を防ぐ重要な仕掛けとして機能していることを明らかにしている。最後の第6章は、第4章と第5章で提示した分析結果を統合し、本論文の中心的議論を結論としてまとめる章である。なお、本研究の第4章と第5章で論じられる内容は、それぞれ1本の査読付き学術論文として刊行されている。

## 2. 評価

本論文はインドネシアにおける零細・小企業向け信用保証制度の実績を評価する研究として、以下の点が評価に値する。

1) 従来、信用保証制度の実績評価は、借り手である零細・中小企業の財務的追加性および経済的追加性の分析に限定した内容の研究が大半を占めてきた。その中で、本研究は、インドネシア、ロンボク島における事例分析を通じ、信用保証制度を構成する全アクターを包括的に俯瞰し、信用保証会社の財務的持続可能性、零細・小企業が得る追加性の便益、および参加金融機関によるモラル・ハザード対策の有効性を、定量・定性両方のミクロな分析手法を有効に組み合わせて多角的に評価した。評価の手法上、学問的貢献がみられる。

2) 近年、金融包摂への取り組みが世界的な課題になっている中、開発途上国における零細・中小企業向け信用保証制度の是非は国際的な論争となっている。本論文は、限定された地域での事例研究ではあるものの、途上国の文脈で、国営信用保証制度が一定の成果をおさめていることを実証的に明らかにし、金融包摂に関わる世界的な議論の蓄積に貢献した。とりわけ、世界的に注目されるインドネシア庶民銀行 (Bank Rakyat Indonesia) が、信用保証制度が抱えるモラル・ハザードに地域密着型のアプローチで対応している様子を臨場感をもって描きだした点は評価に値する。

## 論文審査の結果の要旨

同時に、本論文は以下のような不十分な点も含んでいる。

1) リレーションシップ・バンキングの分析において、銀行の得意先担当者と借り手である零細・小企業家の関係の密接度を分析したが、同じ関係性が借り手の選考にバイアスをかける可能性について、分析が必ずしも十分ではない。融資先としての過去の実績に基づいて、同じ顧客に繰り返し融資を行うことで、潜在的には良好な融資先となり得る新しい顧客への貸し付けが制限を受けることになる。融資先の選考において、銀行と得意先担当者個人の優先順位が異なる場合が想定されるため、銀行が担当者個人の業績をどのように評価すべきか等が今後の研究課題として残る。

2) 第4章で、財務的追加性による便益を受ける蓋然性の高い零細・小企業家の特徴を分析しているが、これらの特徴（一定の売上高、若手、家族経営、豊富な融資受取り経験等）と第5章で分析されるリレーションシップ・バンキングの特徴とを関連づけた分析を深める余地がある。信用保証制度により財務的追加性を最大化し得る企業家が、得意先担当者との良好な関係により継続的に資金を得ている顧客の像と合致するのかどうか、定量分析と定性分析とを掛け合わせた分析の局面をより深化させることが可能である。

しかし、これらの点は、論文著者が今後の途上国における信用保証制度に関わる研究を深化させる上で取り組むべき将来の課題であり、本論文の価値や独自性を損ねるものではない。本論文は、博士論文としての水準に足りるオリジナリティと学術的価値を十分に有していると判断する。

### 3. 判定

以上のような審査の結果を基に、本論文は博士（国際開発学）の学位に値するものと判定する。